



編集 SEF事務局
 連絡先 080-8865-0951
 URL <http://sef-jpn.org>

巻頭のことば 「ウクライナ危機がSDGsの舵を切った」

担当理事 坂下幸司

ウクライナ危機の直接の原因は、ウクライナが NATO に加盟したがることにある。そこだけを見ればウクライナ問題は安全保障に関わる純粋な軍事問題である。だが、それだけではない。EU がリードして SDGs 実現に向かう世界の流れに歯止めをかけたいという米国の思惑が微妙に入り込んでいる。ドイツはエネルギー源を環境に優しい風力や太陽光発電にしようと言ってきたが、風力や太陽光による発電量は思うように増えていない。現在、その割合は全エネルギー供給量の 6%に過ぎない。再生エネルギーの稼働率はおよそ 50%である。これは 2 倍のコストがかかることを意味する。電気自動車が普及しても、電気を作るエネルギーが必要である。ドイツは再生エネルギーと天然ガスの併用を考えた。LNG は同じ熱量を得るのに石炭の 3 割、石油の 6 割程度しか CO2 を排出しない。ドイツは、バルト海の海底にパイプラインを建設して、ロシアからの輸入量を増やそうとした。その結果として、SDGs を旗印にロシアとドイツの蜜月関係が始まった。しかし、米国は経済制裁と称して西側諸国がロシアから天然ガスを購入することを止めさせる。ロシアは、中国の天然ガス輸入量が急増していることは救いになる。ドイツの代わりに中国に買ってもらえばよい。中国相手の商売なら、ドルでの決済ができなくなっても交易できる。米国は、日本が中東から買い付けている天然ガスの一部をドイツに回すように働きかけた。日本は原発低迷で、天然ガスによる発電は生命線とも言える存在になっている。そう易々とドイツに分けることなどできない。一方、ドイツにしても、SDGs への取り組みが遅れているとして見下していた日本に頭を下げたくないはずである。それらの理由から、日本が簡単にドイツに天然ガスを譲ることはないだろう。今後、EU やドイツが SDGs を強く主張する場面は急速に減少する。その結果、SDGs は国際社会の中心的話題ではなくなる。日本はきちんと「核のゴミ問題」を解決しなければならない。

4 月度理事会より (第 223 回 4 月 20 日)

事務局

1. 第 21 期体制表 →可決承認	5. 第 20 回通常総会案内状 →5 月度理事会にて最終決定
2. 第 21 期予算案 →5 月度理事会にて最終審議	6. 業務支援事業部第 20 期 4Q 活動報 →報告了承
3. 第 20 期決算事業報告及び第 21 期事業計画案 →5 月度理事会にて最終審議	7. 第 20 期事業実績表の更新 →報告了承
4. 第 20 回通常総会資料 →可決承認	8. 2022 年 3 月度月次会計報告 →報告了承
	9. 準会員のフォロー結果-木村隆雄氏の退会 →報告了承

事業報告 (G1・事業統括)

担当理事 任田典平

SEF の事業収入は最近減少傾向にあり、2021 年度は前年度比約 60%減少しました。継続案件は T 社での化工機の技術支援、S 社の販売支援、職業大の AI・IoT 実践教育の 3 件となりました。部会員は SEF の PR あるいは面談で得た課題への提案等をしてきましたが、案件受託に結び付く成果は得られませんでした。

原因には①コロナウィルス感染の影響を受けて、従来 SEF が関係した業界での人材要請はじめニーズそのものが減少している ②SEF 自身がデジタル技術活用に関する取組が遅れている 等が挙げられると考えています。

そのため今期は営業機能を強化するために企画 G、技術 1G、技術 2G にしてグループ編成を見直すと共に、以下の共通課題に取組むことを計画しています。①DX、IoT 導入：戦略情報センターとの連携及び東京都中小企業振興協会の事業への協力によるデジタル技術を導入した生産業務革新への取組み、②機器検査分野の再構築：従来から取組んできた検査業務の他、検査機関から提案がある新しい分野を含めて今後向かうべき方向を定め、取組み施策を設定する。

また各企業からの要請に基づく個別課題への対応については上記共通課題と併せて開拓を進める予定です。

SEF サロン (第 122 回案内)

担当理事 白崎善宏

《 第 122 回案内 》

日時:2022 年 5 月 18 日(水)、15 時~16 時 30 分 Zoom 方式 講師: 坂西剛 国光施設工業株式会社 取締役会長

題目:「1.意思決定(with a decision tree)の理論とケース 2.ファミリービジネスのポイント」

概要: Stanford 大学で decision analyses を修得して 40 年、decision tree を駆使して、人生の決断を重ね、父から引き継いだ会社(国光施設工業)を無借金体質の安定軌道にのせ、無事長男に継承した著者が、積み重ねた決断記録ノートの中から精選し、悔いのない決断をどのようにするか、実践的・体験的にやさしく説く意思決定・with a decision tree・坂西氏著作「意思決定 with a decision tree」(書籍工房早山)の紹介文より

4 月度会員動向

事務局

会員の入退会 準会員入会：1 名 (呂敏氏)、	4 月末日現在の会員数 正会員：22 名、準会員：43 名 賛助会員：5 社+1 団体
----------------------------	---